

事業所名

多機能型事業所 くらんなかま

支援プログラム

作成日

2025

年

10

月

1

日

法人（事業所）理念		社会に出るときに必要な力を身につけるために、自分の得意なことや苦手なことに気づき考えるきっかけとなるよう、さまざまな活動を行います。										
支援方針		利用者一人ひとりの特性や成長に合わせた療育を行います。活動の中で、出来たことに対し褒める評価を行い利用者が自信を持ち、達成感を職員一緒に共感し、更なる成長に繋げるようお手伝い、サポートします。										
営業時間		10	時	0	分から	18	時	0	分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容												
本人支援	健康・生活	1日の生活リズムの把握を行い、規則正しい生活が送れることを目標とする。 食事や睡眠の大切さを伝えるとともに、1日の生活の流れがスムーズになるために必要な支援を考え提供する。 個別活動はもとより、集団での活動ができるような支援を提供する。										
	運動・感覚	日常生活に必要な運動機能の向上を目指す。起立着席の姿勢をはじめ、目を動かす運動、身体能力の把握も含めた適度な睡眠に繋がるための運動習慣も身につける。 感覚過敏の特性に配慮しつつも、先入観にとらわれない視点を持って無理なく可能性を広げる経験を積み重ねる。										
	認知・行動	空間認知、危険認知に重点を置き、室内活動や戸外活動を通して自立した行動を目指す。 ケガや事故に繋がらないためにどうしたらよいかの判断ができるための療育を行う。										
	言語 コミュニケーション	言葉の遅れに関しては、職員の口の動きがわかるようマスクを使わず関わる。 SSTを通して個別に言葉のやり取りを繰り返し行うことで、表情や口の動きを組み取る訓練をする。絵本の読み聞かせも行う。 絵カードや言葉カードを使用して自分の要求や指示を相手に伝える事で気持ち、思いが伝わったという達成感を味わうことができコミュニケーション力の向上を目指す。										
	人間関係 社会性	訓練や指定された活動だけではなく、個別、集団での自由遊びの時間を大切にする。自由遊びの中から自分が得意なこと、苦手なことを感じ取ることで、自分以外の人との会話や行動の中で起こった誤解やトラブルを見逃さず、なにが原因か？どうすればよかったか？なぜこうなったのか？を相手とともに考え、相手の気持ちを知る力、気づく力も身につける。 事業所内だけではなく、戸外活動の機会も多く取り入れ、社会のルールやマナーを知り、自分のペースだけではなく社会の流れに沿って行動できる社会性を身につける。										
家族支援		毎日の送迎の際や連絡帳を通じて家族の方との会話を大切に、どんな事でも相談してもらえる信頼関係を構築する。年2回の定期家族個別面談を行い家庭での困りごとの聞き取りを行いその後の療育に繋げる。また年に2回の合同保護者懇談会を行い、保護者の困りごとをほかの保護者や職員と共有し、お互いに支え合う関係性の構築を図り保護者の不安やストレスの軽減を図る。保護者が居場所をなくさないように事業所と関係機関が連携してサポートする。				移行支援		小学校入学や、やむを得ない事情により事業所を移籍する時等は、利用児の現状とこれから先（就学後や事業所移籍後）を考え、関係機関と情報共有の為の連携会議を行う。 支援内容については、書面など目で見てわかるものを作成し共有をすることにより、作成者以外の複数の支援者の支援が均一化した支援を行うことができるようにする。				
地域支援・地域連携		事業所がある周辺地域の公的機関や関係機関の子育て関係の窓口と連携を取り、周辺地域の子供たちの現状や環境、需要について情報共有を行う。また地域のボランティア団体と連携を取り、事業所に来ていただき子供たちとの触れ合う時間を作る事で事業所のことお知らせする環境設定を行う。所属自治会にも協力を求め、お互いに共生し地域で見守る環境を作る。				職員の質の向上		福岡県が主催する様々な研修や他の事業所や企業等が主催する研修に参加し、支援スキルの向上を目指します。また毎月行う全体職員会議で個別事業の検証、意見交換、支援内容の確認等の共有を行い、指導員、訪問支援員としての自覚を養う。 また、事業所内でも療育支援活動、訪問支援活動の現場指導も行き、その場で支援を見直す場を経験することで支援の質を高め職員間で共有を行う。				
主な行事等		利用児向け：お花見・夏祭り・クリスマス会・プール遊び・七五三詣り・お芋掘り・栗拾い・餅つき・キャラクター施設おでかけ 保護者向け：保護者懇談会（年に2回程度）・定期保護者面談（年2回）・個別相談会など										